非戦を選ぶ演劇人の会　ゆんたく高江台本

私の村から戦争が始まる

～沖縄やんばる・高江の人々が守ろうとするもの～

作　清水弥生

○オスプレイ配備

　　　　　　オオシマゼミの鳴き声が聞こえてくる。

ジジジイ、カンカン、という音が混じり合っている。

アヤ　オオシマゼミの鳴き声って、オーケストラみたいですね。ていうか、前衛音楽？　イントロダクションがあって、段々層が厚くなって、盛り上がっていく。低音がよく響いています。奄美大島や、沖縄本島の北部に生息していて、だいたい八月末から十一月まで見られます。

セミの鳴き声、次第に激しくなってくる。

アヤ　去年の１０月、やんばるの森はオオシマゼミの鳴き声に包まれていました。鳥の声も入り混じって、まるで、森の音楽会のよう。……（耳を澄まして）徐々に、低音パートが乗ってきました、（みな、リズムにノリよくのっている）激しく叫び始めたようです。妙に頭に響きます。……ちょっと、低音デカすぎですよね？　……やがて私はそれが、セミよりもずっと巨大で、重さのあるものがたてる音だと気づきました。

　　　　　　音はオスプレイの轟音に変わっていく。

アヤ　二〇一二年一〇月一日、激しい県民の抗議の声を無視して、オスプレイは普天間に配備されました。そして、高江の空にもその姿を現したのです。

イサ　県道をものすごい低空で横切っていました。え、もう、そこ？と思うぐらい近くに感じました。米国内の基準を適用すれば、こんなに自由に飛べるはずがない。

お母さん　Ｎ４テントの近くでオスプレイが飛んでいるのを見ました。もう、なんか、こんなにしゃあしゃあと飛ぶのかって……。飛び始めてからすーごく気分が悪くなって、頭痛がひどくなってもう一時間もテントにいられませんでした。これがオスプレイの低周波か、かなわないなあって思いました。

お父さん　オスプレイが夜間演習していました。高江区を大きく周回しながら北部訓練場内の森上空で飛行機モード、ヘリモードに展開しながらメインゲート横のヘリパッドでタッチ＆ゴーしていました。低音が響く方を見ると夜空に浮かぶ緑の光ですぐに発見できました。

ピコ　おっきな虫みたい。緑のわっかが二つついてる。あ、緑が赤に変わったよ！

お父さん　振動で夜を切り裂いていくようでした。

お母さん　もう、家にいてもうるさくてびっくりしました。あ、こんなにうるさいんだって。夜九時半のことです。

お父さん　着陸時になぜかぞわっと寒気がしました。飛行場の横に住んでいるような状態に思えました。森の中なのに。

アヤ　二〇一二年、オスプレイ配備を目前にした九月九日、沖縄の宜野湾海浜公園で行われたオスプレイ配備反対を訴える沖縄県民大会では、一〇万人を超える人が集まりました。また、配備直前の九月二七日から三〇日までの四日間、台風の最中、市民が普天間基地の全ゲートを封鎖しました。これは初めてのことです。

イサ　今の日本政府のやり方は、アメリカが戦後に沖縄の土地を無理やり取り上げた、「銃剣とブルドーザー」と同じね。

アヤ　高江に住む、ヘリパッドいらない住民の会のイサさん。

イサ　いやだと言っているのに、しつこくしつこく、沖縄があきらめるまでやろうとする。島根で低空飛行で保育所の窓ガラスが割れたって聞きました。オスプレイは沖縄だけじゃなく、全国を飛ぶから、日本政府も放っておけないですよ。

アヤ　沖縄県知事も、議会も、東村村長も、オスプレイには反対していますよね。でも、高江に作るオスプレイパッドには反対していません。これは矛盾していると思うんですが、伊集村長はどう思われますか？

伊集　東村の村長、伊集（いじゅ）です。ヘリパッドに関しては、SACOの合意に基づいた条件でありますので、容認はしております。北部訓練場の返還のために一九九六年の合意があるものですから……。

アヤ　あの、合意があるとおっしゃってますけど、高江区民はヘリパッドに合意してません。防衛局はオスプレイが来ることも隠していて、必要な環境アセスメントもしていない。なし崩しにオスプレイのために使用されていて、それでもヘリパッド工事は容認なんですか？

伊集　環境アセスメントに関しては、オスプレイが来るということならやり直すように、防衛局に何度も抗議しています。オスプレイに関しては、絶対反対ですので、これからも主張していきたいと思います。

アヤ　でも、高江に作られようとしているのはオスプレイパッドですよね？　それには反対しないんですか？

伊集　私としても難しい立場でして。

アヤ　ええ。

伊集　北部訓練場の半分が返還されるというのは大きいんですよ。返還された部分は国定公園の指定を受けて、いずれ自然遺産に登録していって、これ以上基地を作らせない、という世論を盛上げていきたい。

アヤ　うーん。やっぱり、配備には反対で、ヘリパッド建設は容認という話の筋道が分かりません。

伊集　これは、壁が厚いんですね。国と国との問題ですから。

アヤ　国と国との問題。日本とアメリカの問題。日本と沖縄県の問題。沖縄県と東村の問題。東村と高江の問題。だんだんと小さな集落の問題にされていく。でもそこに巻き込まれた住民の生活は？　無力感の中で、自分に何ができるのかを、考えています。オスプレイが来てはい、おしまい、じゃない。そこでの生活はずっと続いていく。

○高江行き

ヤヨイ　この朗読劇の作者、清水弥生です。高江との出会いは二年前、二〇一一年の二月のことです。高江に行った円城寺さんから緊急レポートが届きました。

　　　　　　アヤ、高江現場の様子を伝えている。

アヤ　一一時頃、土嚢を乗せたダンプ、作業車を含めた合計一四台が到着。防衛局・作業員が大挙してＮ１ゲートにやってきました。作業員十数名がネットの隙間から中に入り、バケツリレーで土嚢の搬入しようとしています。……うわっ、あぶない！　土嚢をダンプから住民の頭越しに投げ入れています。

ゲンさん　作業をやめろ！

アヤ　作業員はみんな若い人でした。一六か一七くらいの、沖縄の人らしい顔立ちをした子ども達。作業員の後ろにいる指揮者の防衛局員は見ているだけ。実際に手を下すのは作業員。お兄さん、止めよう！

作業員　なにするんだよ、押すな！

お母さん　人にぶつけたら傷害罪だよ。

防衛局員　妨害行為はやめて下さい。

ゲンさん　防衛局の人たちよ、自分たちは見てるだけで、こんな若い人たち使って自分を守らせて、何にも思わないわけ。大の大人が。ねえ。

アヤ　作業員がダンプに乗り込んで下にいる作業員に土嚢を渡そうとしています。住民と支援者が腕を組んで阻止し、土嚢を奪ってダンプに投げ返します。ダンプの周辺は押し合いへし合いになっています。

お母さん　（作業員に）ねえ、どうしてこんなことするの。あなた、自分が何をしているか知っているの。防衛局はこの美しいやんばるの森を、七五メートルも切り開いてオスプレイパッドを作ろうとしてるんだよ。

作業員　……でも、職がないんすよ。

お母さん　……もっとましな仕事、給料安くてもさ、人の生活ぶち壊さないで済む仕事をしなきゃ。さぼんなさい。なるべく、あっちの人に作業してるように見せかけてさ、時間過ぎれば給料はもらえるんだから、のろのろしてた方がいいよ、ね。

アヤ　それから、この少年の動きは極端に鈍くなりました。二〇一一年二月、テレビでは中東のデモが話題になっていた頃です。

ヤヨイ　ユーチューブで映像を見て、えーっとのけぞりました。だってこんなことが起きてるのに、東京では全く報道されてない、この温度差は何？　ていうか高江ってどこ？

アヤ　高江では米軍のヘリパッドを建設する予定があって、住民に説明もなく工事が行われてる。住民や支援の人が座り込んで止めてるの。

ヤヨイ　ヘリパット？　ヘリパッド？　ヘリポートじゃいかんのか……？　カミングアウトしますが、沖縄防衛局があるというのもその時初めて知りました。防衛省の管轄で防衛局があるのか……。

アヤ　防衛省は国家機関、つまり、防衛局は国の方針に従って動いているということ。

ヤヨイ　国の事業を住民が止めてるんですか？　いざ高江への行き方を調べてみて、あまりの遠さに気が遠くなりました。那覇からバスを乗り継いで３時間はかかる。家にあったガイドブックの地図には高江の地名すら載っていませんでした。グーグルマップで調べても、高江のある北部の東側は、拡大ができない。まわりが全部基地だから、地図上のほとんどの部分が空白なんです。

アヤ　二〇一一年、高江の現状を伝えるために、ゆんたく高江で朗読劇をやることを企画し、ヤヨイちゃんにその台本を依頼しました。

ヤヨイ　その高江に関する朗読劇は発展、改訂を繰り返し、兵庫、東京、そして沖縄の北谷で上演されることになりました。

アヤ　今度やるときは、いや、工事が止まってこんなことやらなくて良くなるのが一番なんだけど、ま、やるときはオスプレイが来た後の高江の姿も描いたほうがいいと思うんだよね。

ヤヨイ　ええ。そうだ。ほんとは座り込みの必要も、朗読劇の必要も、なくなるのがいい。だけど、そのためにも、高江の「今」をもっと多くの人に伝えていきたい。二〇一二年十一月初旬、私は高江に向かいました。

　　　　　　ヤヨイ、高江に到着。

ヤヨイ　ヘリパッドいらない住民の会の事務所に着くと、高江住民のお母さんと、小学生の女の子が迎えてくれました。

ピコ　石原ピコです！

ヤヨイ　ちなみに、ピコのお父さんは、~~プロの~~ギタリストです。日本全国でライブをしながら、高江の現状をみんなに伝える活動をしています。

お父さん　なんていうかなあ、今までも何回も山があったけど、オスプレイが来ちゃったっていうことと、実際の生活を立て直さなきゃいけないっていうことがあって……。高江には小さい子供のいる家庭もあるし、マジで引越し考えなくちゃいけないのかって思うこともある。でも、ここが好きで、げんさんみたいにこの土地を買って自分で家を建てた人もいる。たまらないよね。

お母さん　なんか、オスプレイ飛んでるのを見ると、もう、膝が、がくって落ちるくらいショックで。

ピコ　なんでやねん、みたいな。ラジコンみたい。飛行機モード、早いよ。

ヤヨイ　二〇一〇年の沖縄防衛局による高江住民説明会。

防衛局長真部　局長の真部（まなべ）です。今、沖縄全土でも一八パーセントある基地の負担が、一四パーセントにということであればですね、それはやはり、負担の軽減、県民負担の軽減という風になると、私どもは考えております。

イサ　返還部分にあったヘリパッドを移設する、つまり新たに六個のヘリパッドを別の場所に建てる。こういう条件ですか。

お母さん　今度のヘリパッドは、高江の集落を囲むように建つことになってる……。

げんさん　うちから三百メートルのところなんですよ。

お父さん　ヘリの飛ぶ飛行ルートとかはどうなってるんですか。どんな機種が飛ぶんですか。

お母さん　何時まで飛ぶんですか。

真部　真部です。そういうことは防衛上の機密ですので、答えられません。オスプレイがそこで運用されるようなことがあるということでしたら、また改めて説明会を開かせていただきます。

お母さん　開かれなかったですよ。ジャスコだって、建てる前に住民に説明するじゃないですか。防衛局の人たちは、オスプレイなんて来ません、わかりません、って散々言っておきながら……。配備が公表されたら、来ることになりましたからよろしくって。

ヤヨイ　もうすぐ、座り込みも六年目。

お母さん　もう、そんなになっちゃいますね。座り込み始める前にも、住民の意見を一生懸命集めて、村や県に提出して、できることは全部やったんですけど。

ヤヨイ　全然聞き入れられなかったんですね。

お母さん　全然相手にされなくて。七月から工事って言われて、もう、どうやったら止まるのか、わからなくて。座り込みの始まる三日前かな、辺野古に行って、座り込みってどうするんですかー、って聞きに行ったんですよ。

ヤヨイ　その頃の記録は、お母さんたち住民の会のメンバーが書いたブログで知ることができます。

○お母さんたちの記録

ピコ　二〇〇七年六月三〇日。

お母さん　ほんのついこの間まで「座り込みなんて、無理無理。人数いないし。ホント無理。絶対無理。できるわけないじゃん。」なんて言っていたのに、あっという間に、やらざるをえない状態になっているのでした。出来るのか、続けられるのか、自分達の生活はどうなるのか、高江の他の区民に理解してもらえるんだろうか、気持ちがパンパンになっています。

イサ　とにかく、始めてみること。

ゲンさん　七月二日月曜日朝八時から、私たちは座り込みを始めます。

お母さん　高江に来て座り込みを手伝ってください。お願いします。

イサ　始めてみないとわからないことだらけですが、少しずつ改善していきますのでよろしくお願いします。

ピコ　みんなー！　高江に来てー！

ゲンさん　緊急の電話掛けや、インターネットを通じて、全国に呼び掛けました。そして、人数の少ないなかで、二四時間交代体制の座り込みが始まりました。

お母さん　七月四日、やっと自分の置かれている状況が落ち着いて見られるようになってきました。把握までは、まだいってません。この暑い中、朝五時からひたすら座っているのはかなりしんどいです。しかし、いざ、というとき以外は結構ヒマなのです。女性陣でここで出来そうなことをいろいろ考えました。

ユキネ（ヤヨイ）　麻ひも持ってこようか。それでカゴ編んだり。

ナオコ（アヤ）　編むならアクリルたわしもいいよね。

お母さん　とりあえず、今日は家から洗った洗濯物を持ってきて、昨日、防衛局が作っていったＮ４地区の柵に干しました。

ピコ　七月五日には、座り込み保育園ができました。

ナオコ　今日は高江のニューフェース、生後一ヶ月過ぎのたっくんを筆頭に高江自主保育チームが午前中Ｎ４地区に集合。座り込みのござの上はあっという間に保育園と化したのでした。とにかく人が足らないのでお母さんや子どもたちも出動です。

ピコ　高江には小中学校が一つ。小学生九名、中学生四名の計一三名の生徒が通っています。

ナオコ　子供のいないお家も学校行事に参加します。地域みんながＰＴＡなんです。

ピコ　七月九日。

お母さん　またもや七時前から集合がかかり、ねぼけてて日焼け止めもつけずに出かけてしまいました。戦闘訓練センターのゲート前で防衛局の人らとの問答が昼前までの長時間続き、非常に緊張しました。

ピコ　九月一〇日。

お母さん　本当に先週は、「今日来るか」「今日こそ来るか」と、気を張らないようにと思いながらもひりひりした一週間でした。この「くるのか？」「こない」「くるのか？」「こない」の繰り返しってなんか身に覚えがあるなぁ、と思い返してみたら思い出しました！　陣痛でした。すいません、くだらなくって。しかし、生まれようとしているもんが悲しすぎます。

ピコ　お母さん！

お母さん　あー！

ピコ　ヤンバルクイナ！

お母さん　今日、ついに初めて見ました！赤と白の模様もくっきりと見えました。いいものみちゃった。遭遇した道には「ヤンバルクイナに注意」の看板がいっぱい。今年はすでに二十一羽が交通事故の犠牲になっているそうです。あの走りっぷりではなあ。もう千羽もいないそうです。私は鳴き声を知りません。今年の夏休みに天然記念物のイボイモリもみつけました。

ピコ　恐竜さん。

お母さん　ピコが言う通り、小さい恐竜みたいでした。手のひらにのせてもじっとしてました。シリケンイモリにしても、あきれるぐらい動きが遅くてそこらじゅうで車に轢かれているし。やんばるの生き物たちは本当にゆっくりとした静かな森の時間で生きているんです。車が走るだけでも信じられないぐらい暴力的なのにオスプレイなんて……。

ユキネ　二〇〇八年一〇月一八日、東村の伊集盛久（いじゅせいきゅう）村長が、同村高江区で進む米軍のヘリパッドの移設工事に関連し「二割を犠牲にしてでも８割を生かした方がいい」などと述べていたことが分かりました。二割というのは高江の住民のことです。

ゲンさん　隣のおばぁは、この事を知っているかな？　いや、言えないよ。わからん方がいいかな。おばあは、戦後生きるために仕事をもとめ高江に移り住み、やんばるの木を切り過酷な労働をして、やっと生きた。高江の山や海のめぐみを食べて、今があります。アメリカ、日本政府によって犠牲にされ、今また自分たちの村長までもが。

お母さん　それから、裁判が始まったんです。

ヤヨイ　裁判……。

お母さん　国が私たちを訴えたんです。

○裁判のこと

アヤ　二〇〇八年一月二五日、国は高江の住民一五名を訴えました。座り込みをしていることが通行妨害だとして、裁判所に仮処分を申し立てたんです。

ピコ　訴えられた中には八歳の子供や、パイナップルをテントに差し入れただけの人もいました。

アヤ　その、国、が「妨害行為」の証拠として出してきたのは、

ピコ　なんか、ブログでー、座り込み来てって書いたやつのコピー。

げんさん　新聞のインタビューで、座り込みについて話した記事。

お母さん　防衛局に建設反対を申し入れた書類とか。

アヤ　ポスターやＴシャツを作って販売し、活動資金に当てた記録や、資料やパンフレット。

ピコ　ヘリパッドに反対しますっていうのに署名した、署名用紙。

ヤヨイ　え、ちょっと待って、これのどこが証拠になるんですか。

アヤ　反対を訴えるのもダメ、ブログに書くのもダメ、署名するのもダメって、なんなんですか、ここどこなんですか。

ヤヨイ　何もかも侵害されまくってる。

アヤ　そんなのが「妨害行為」になるんだったら、非戦を選ぶ演劇人の会のメンバーはみんなひっかかっちゃいます。

お母さん　これらを「妨害行為」とした国側の主張はほとんど退けられました。

ヤヨイ　当たり前です！

お母さん　那覇まで往復六時間掛かる道を、裁判所まで通わなければなりませんでした。

アヤ　十五人のうち、二人の仮処分が決定したとの知らせがきました。

ゲンさん　私、安次嶺現達（あしみねげんたつ）ほか十五名は、いい加減な証拠で訴えられました。その中には、私の小学生の子どもも含まれていました。子どもはとても傷ついて、怯えています。私は親として、防衛局がやったことを一生忘れることができない。許すことができない。

イサ　イサです。原告側の欄には、首相や防衛大臣などの個人名ではなく、「国」の一文字が書かれていました。「国」とは誰なのか。何なのか。私は被告として名前が挙げられていました。まるで罪を犯したかのように。

お母さん　この二人と、取り下げられたメンバーの違いって、なんにもないんです。ただ、住民の会の代表だったってだけ。

アヤ　こういう訴訟はスラップ訴訟と呼ばれています。反対運動の当事者を訴え、裁判による負担を精神的にも、肉体的にも与え、運動そのものの萎縮を狙った訴訟です。

お母さん　現場に行ったらあんたも裁判にかけられるんだからな、ていう脅しです。

アヤ　その後、裁判所は二名の内、安次嶺さんについては請求を棄却しましたが、イサさんについては通行妨害を認めたのです。

ヤヨイ　（新聞を呼んでいる）判決では、住民が２００７年中の四日間で、計五回にわたって「物理的」な通行妨害をしたと認めた。妨害の内容は、沖縄防衛局職員らがトラックに積載された砂利袋を手渡しで搬入する作業を行った際、作業員の間で両手を高く挙げたことや、進入路のゲート前で、他の住民らと横並びで立った行為などを挙げた。

ゲンさん　私とイサさんのしてきたことは何一つ変わらない。イサさんはたまたま悪いように写真に写っただけです。

ヤヨイ　みんなもおんなじことをやっていたのに、何でイサさんだけなの？　よくわからない。

アヤ　住民側の弁護団の加藤弁護士。

弁護士　弁護士の加藤です。この裁判は極めて稀な裁判です。本来の裁判のあり方、というのはですね。通常の社会関係の中で、弱者として権利が侵害される。だからこそ、裁判所~~という国の機関~~の助力を得ることによって、権利を確保するわけです。しかし、今回、国は、金と権力を使って、行政という権力の上に、司法という権力を用いて、自らの強引なやり方を押し通そうとしている。これは、本来の裁判所の利用の仕方ではありません。

お母さん　私は高江に住んでいますが、仕事に出ているので急になにかあっても現場に駆けつけられません。沖縄防衛局員たちが一〇〇人くらいで押しかけてきたと朝六時過ぎに電話がかかってきても、私はお弁当を作って子供たちと御飯を食べて、仕事に行きます。県道を南下していると、連絡を受けて車を北に走らせている顔見知りともすれ違います。ごめんなさい、ごめんなさい、って歯をくいしばりながら、高江の森に背を向けて仕事場に向かいます。仕事の帰りには、車の中でも走りたいほど気がせいて、大急ぎで高江に戻りますが、今度は帰っていく顔見知りの車とすれ違います。現場にやっとついて、どうでした？　と私が聞くと、

ゲンさん　いやあ、大変だったさあ。

お母さん　後で映像で見ると本当に本当にひどいのに、みんなと穏やかにお茶を飲みます。高江にもっとヘリパットが出来て、オスプレイも飛ぶのは困るって言ったら、なんで国に訴えられたり、反対派とか言われたり、胸がつぶれるような思いをしたりすることになるのか。

げんさん　それでも、私たちは座り込みを続けました。

　　　　虫の声。

ヤヨイ　高江共同売店からの帰り道に、イサさんと会いました。

イサ　作業場、見ます？

ヤヨイ　イサさんは、木工の職人さんで、主に沖縄の伝統的な仏具であるトートーメを作る仕事をしています。一つ一つ、細かく彫られている彫刻のようです。

イサ　今日はそんなにだけど、百個くらい注文来るときもあるよ。

ヤヨイ　うわあ、こんな細かい作業、一個一個作るのは手間がかかりますね。

イサ　そうだね。奥さんが一緒にやってくれるね。

ヤヨイ　オスプレイ、来てしまいましたね。

イサ　高江にもたまに来て、CH46と同じような訓練はやってるね。こないだみたのは、オスプレイから兵士たちが次々と降りてくる。最初は低いところで兵士を降ろして、またぐるっと一周して兵士を載せて、今度は高いところから降ろす。オスプレイの下降流というのはすごく熱が出るらしいよ。だから兵士も大変だろうな、と思ってね。

ヤヨイ　イサさんは自分の愚痴を言わない。国から訴えられて一人だけ通行妨害が認められてしまい、係争中の今も変わらない。

イサ　心境は特には変わらないですね。当時は十五名いたのが、最後には１人になってしまった。外れた人も、喜べないんですね。申し訳ない、と彼らも思ってるのがわかる。そういうふうに分断して、孤立させていく、裁判の非常さを感じますよね。

ヤヨイ　それが国のやり方なんですね。

イサ　意識のある人は違うとわかってくれるけど、知らない人は犯罪人だと思ってしまう。飲み友達も減りましたね。やっぱりこれは勝たないと、そのほかのいろんなところに影響が出てくると思いますね。またどこかでスラップ裁判が行われてしまう。

アヤ　憲法２１条１項「集会、結社及び言論、出版その他一切の表現の自由は、これを保障する。」

イサ　私たちのやっていることは、非暴力の、表現活動、意思表示なんです。

アヤ　憲法二五条「すべて国民は、健康で文化的な最低限度の生活を営む権利を有する。」高江のヘリパッド建設は、住民の生活権も脅かしている。

イサ　特にいま、改憲案などが出てきていますよね。もしそれが通るようなことがあると、国民の表現の自由が保障されなくなってしまう。公共の政策に刃向かうと国民は潰されてしまう。そういうとても危険な流れがあると思います。

ヤヨイ　夜、外に出たら、満点の星空が広がっていました。東京にいると見えないものがたくさん、ここでは見えるような気がします。

○座り込みレポート

　　　　　　目覚ましの音。

ヤヨイ　朝の五時にＮ４テントに集合して、リーダーに指示された配置場所に座ります。

支援リーダーＹ　この県道の両脇が、北部訓練場。米軍へ提供している立ち入り禁止区域になってる。

支援者Ｈ　二〇一二年の七月、業者はメインゲートからすべての資材を運び入れてしまったんですね。なので、今は基地内に業者の作業員が入らないように、見張るという戦術をとってるんですよ。

ヤヨイ　カンテラを持って、国道７０号線沿いにじっと座っていました。早朝から散らばって監視しています。座り始めはまだ空は暗いうちでしたが、月と星の明かりが道を照らしていました。虫の声だけが辺りに響いていました。一体これがいつまで続くんだろう、みんなどういう思いでここに座っているのだろう。

アキノ隊員　（いつのまにか現れている）そこに、オオモリゴキブリ、いますよ。

ヤヨイ　ゴキブリ？　（恐怖におののき）やだ！　ほんとだ、カンテラの近くにいる。でかい！

アキノ隊員　森のゴキブリは可愛いですね。

ヤヨイ　そんなこというあなたは、昆虫博士のアキノ隊員ですか！

アキノ隊員　リュウキュウウラボシシジミは見たことありますか。

ヤヨイ　シジミ？　シジミですか。

アキノ隊員　沖縄本島北部と西表島のみに生息する準絶滅危惧種です。沖縄本島北部では局所的に分布し、その生息地でも数の大変少ないチョウです。

ヤヨイ　チョウですか。

アキノ隊員　このチョウの大発生地が高江の森にあります。高江にはデリケートなこのチョウが生きることのできる環境が残っています。昨日はそこの道路の上に８０センチ以上ある巨大ヒメハブがいましたよ。運転には注意してほしいですね。

ヤヨイ　（恐怖におののいて）ハブ！！　私、蛇だめなんですよ。

アキノ隊員　蛇というか、ああなるとツチノコに近いですね。

ヤヨイ　見たことありません！

アキノ隊員　残念です。チョウもトカゲも米軍機が通る度に騒音で起されてしまいます。人間は森の生き物たちにそうとう迷惑をかけているんです。昨日も沖縄防衛局に抗議の電話をしました。動物たちは電話できませんからね。

イサ　おにぎりの差し入れに来たよー。

ヤヨイ　バイクでおにぎり、お菓子の差し入れに回ってくれている人もいます。

イサ　がんばろーねー。

ヤヨイ　暗かった空が、徐々に明るくなってきました。とにかく寒くて、たったり座ったり、その場で回ったり、自主的に無意味な動きを繰り返していましたが、陽が照ってきて、徐々に暖かくなってきました。そのとき、上の方でガサガサッと音がしました。とうとう作業員の人が来た！

アキノ隊員　コウモリです！

ヤヨイ　なんと黄色い目を光らせたコウモリが、木の上に止まっているではありませんか。とりあえず、写真、写真。そのとき、首筋とほっぺに生暖かい、黄色いものがふりかかりました。

アキノ隊員　あー、あのコウモリ、下痢してるのかな、随分柔らかいですね。

ヤヨイ　コウモリを生で見たのも初めてなら、糞をかけられたのも初めての経験でした。

アキノ隊員　ハワイでは、隣接する遺跡への影響や、住民の反対を考慮して、オスプレイの訓練が中止されたのに、沖縄じゃ住宅地の上、ガンガンに飛んでますよ、オスプレイ。

ヤヨイ　朝八時半過ぎに、集合がかかりました。

支援リーダーＹ　八時頃、Ｎ４ゲートの近くから重機の動く音が聞こえて、確認したところ、もう作業員に中に入られて、作業が始まっていました。

ヤヨイ　一体どこから入ったんでしょう。

支援リーダーＹ　チクショー。

支援者Ｈ　あ、ウリ坊も抗議に来てるよ。

ヤヨイ　プリプリとお尻を振りながら、イノシシも森のなかから出てきました。

十五時からの抗議には、No!　OSPLEY!　など、大きな英語の字や、オスプレイの絵にバッテンをしたチラシを一人一人掲げて、米軍車両に抗議の声を上げました。

（支援者、それぞれ抗議の声を上げる）

ヤヨイ　メインゲートでの抗議を終えて、Ｎ４ゲートの近くまで戻ってきたときでした。

支援リーダーＹ　作業員が、山の中から出てきたぞ！

ヤヨイ　生い茂った草をかき分けて、道のないところから作業員の人が出てくるのです。

支援者Ｈ　どっから入ったんだ！

作業員　文句があるなら受注者に言え！

支援リーダーＹ　責任者はどこにいる！

作業員　俺に聞くなよ、仕事してるだけだよ。

支援リーダーＹ　防衛局、連れてこい！

ヤヨイ　作業員の人はうちなーぐちでまくし立てていました。作業員が電話で防衛局の人を呼んだらしく、すぐに防衛局の人たちが現場に到着しました。

支援者Ｈ　どこから入って、どういう作業をしていたんですか。

防衛局員　北部訓練場の過半の返還を目指して、そのための工事をすすめております。

支援リーダーＹ　オスプレイには沖縄中が反対しているんだよ。

防衛局員　ヘリパッドには県知事も県議会も了解しています。

支援者Ｈ　オスプレイのためのヘリパッドでしょう。住民に一切説明なしか。

防衛局員　米軍の運用に関しては、私どもは関与できません。

支援リーダーＹ　責任者はどなたなんですか。

ヤヨイ　防衛局の人たちは、何を言われてもびっくりするくらい無表情で、一人の人以外はなんにもしゃべらずに帰って行きました。工事の責任者だと名乗った人も、何を言っても同じことを繰り返すばかり。こうやってなんの説明もないままオスプレイパッドの建設が行われていく。解散した後、どっと疲労を感じました。

支援リーダーＹ　沖縄には膨大な基地があって、その結果、一般の仕事が本土に比べて少ない。失業率も日本で一番高い。そういう背景があるから、作業員に「仕事だからしょうがないじゃないか」って言われると、こちらも非常に苦しい気持ちになるね。

支援者Ｈ　肉体労働している作業員は沖縄人（うちなーんちゅ）。この状況は、植民地的状況が作っているんだってお互い感じている。理解し合っているわけではないけど、お互いの立ち位置というものがみえてしまう。

支援リーダーＹ　そういった関係を超える運動を作っていくには、どうしたらいいのか、それを考えるんだよね。

友寄　琉球大学の友寄元樹です。なぜ、沖縄の学生が基地反対の声を上げづらいのか。それは、生まれた時から基地があるので、不思議に思わない、親戚が米軍基地で働いている、そして大きな問題として、就職ができなくなる、ということがあります。だから、本当は嫌なんだけど、声をあげることができないんです。

ヤヨイ　住民の会の事務所に戻ると、座り込み参加メンバー達が出かける準備をしていました。

アヤ　二〇一二年十一月二日、読谷（よみたん）で米兵の住居侵入事件発生。酔っ払ってマンションに侵入し、その場にいた中学生を殴打。

ヤヨイ　普天間で行われるその抗議集会に行くということでした。

アヤ　その前の月の一〇月一六日未明、嘉手納町で、未明に帰宅中の成人女性が米海軍兵二人に暴行されている。

お母さん　高江も来るメンバーのなかには、沖縄に住んで、ずっと闘い続けてきた人もいます。沖縄のことを「怒りに燃える島」って言う人いるけど、こういうことなんだって、最近思うんですよ。怒りの根源って、悲しみだったり、するわけじゃないですか。一人一人の心の中に、一体何がはいっているんだろうって思うと、たまらない気持ちになってきますよね。

　　　　　ＨＩＲＯ、さんしんを弾く。

○崩落事故

　　　　　　土砂の崩れる音。

語り　二〇一三年の年明けから、ヘリパッド工事作業中のＮ４地区の現場で土砂崩れが発生。大量の赤土が流出した。

糸数慶子　参議院議員の糸数慶子です。防衛局にも県の環境政策課にも、きちんとした調査をするよう、二月に申し入れにいきました。

語り　防衛局は、「崩落が工事の影響とは考えにくい。大雨が原因」というような主張をして、崩落後も工事を進めたが、

語り　事故があったと言われている一月八日前後の雨は４８ミリ、やんばるではたいした降雨量ではない。

糸数慶子　ヘリパッド建設予定地の場所の選定、候補に誤りがあったのではないかと、私たちは考え、追及しています。県の環境政策課がＮ４地区に調査に入ったとき、日米地位協定による管理権の問題で基地内での写真撮影と、サンプリングを拒否されたそうです。こういう事故があった場合、防衛局から県に調査報告の義務があるはずですが、県がそれを求めても、一ヶ月以上報告がなかった。赤土防止条例を所轄する県として、このような対応や現状を黙認するのではなく、原因の究明や今後の対策について沖縄防衛局、環境保護団体、そして地元住民代表らと話し合うべきであり、少なくともそれまでには工事を中止すべきです。

語り　Ｎ４地区は県民の水がめである福地ダムともつながっており、赤土流出などによる広範囲の影響が懸念される。

糸数　アメリカは、自分の国の土地ではかなり細かく土壌を調査し、基地を返還する際クリーンナップに二五年もかけているのに、他の国ではかなり杜撰です。環境に対する配慮がほとんどないんです。

○ニューヨーク

ヤヨイ　アメリカに来ています。というのは、高江に行った二ヶ月後、私は演劇の研修で二ヶ月ニューヨークに滞在することになっていたんです。この機会に、アメリカの市民は沖縄の基地についてどう考えているのかを聞いてみようと思いました。（アーロンに）アーロン、What do you think about American Base in Okinawa?

アーロン　What? I dont know. I cant understand your meaning.

ヤヨイ　私の英語は通じなかった。

アーロン　君は僕に、基地に反対か、賛成かを聞いてるの？　アメリカは国外にたくさんの基地を持ってる。沖縄だけじゃない。その国の状況もある。その一つ一つについて、ここはいい、とかここはよくない、とか僕には判断できない。

ヤヨイ　沖縄にはたくさんのアメリカ軍の基地がある。沖縄の住民は騒音などの大変な被害を受けているの。レイプ事件も多発してる。それについて、あなたはどう考える？

アーロン　それは、事件を起こすのはよくない。だけど、基地があることを、日本の人たちは反対してるの？

ヤヨイ　……沖縄の人たちはほとんど反対してる。

アーロン　でも、日本政府としては、基地があることを望んでるんじゃないの？

ヤヨイ　……望んでいる人もいるけど、望んでいない人もいるよ。

アーロン　望んでる人は、どうして望んでるの。

ヤヨイ　まあ、それは、よく言われるのは中国や北朝鮮の脅威に備えるためらしいけど……。

アーロン　それって、アメリカの問題というより、まず日本がどうしたいかの問題でしょ。

ヤヨイ　サラはどうして日本に行ったことがあるの？

サラ　従兄弟が沖縄にマリーンとして勤務してるの。それで遊びに行ったわ。海が澄んでいて、とっても綺麗なところだったわ。

ヤヨイ　沖縄では、たくさんの人が基地のために苦しんでいて、県民が分断されてるの。

サラ　そうなの。複雑ね。

ヤヨイ　あなたは、基地が戦争につながっていると、思わないの？

サラ　誰かがやらなきゃいけない仕事よ。

ヤヨイ　どうしてやらなければいけないの？

サラ　防衛はしなくちゃいけないでしょう。

ヤヨイ　防衛って、何を守ってるの？　沖縄の基地からイラクに戦争に行ってるんだよ？　帰還兵の多くはPTSDで苦しんでる。

アーロン　ニューヨークはまだ職があるけど、田舎ではいい職がない。大学に行くために軍隊に入ってる人だっている。

ヤヨイ　軍隊が経済活動に組み込まれてるって、なんか、おかしくない？

サラ　あなたの国は、そうじゃないの？

ヤヨイ　……。

サラ　ライト・ウィングの首相が笑顔で戦車に乗ってる写真、ネットで出回ってるの見たわよ。ＡＢ？　アビー？　ナショナリストの支持率が高いんでしょう？

ヤヨイ　……私は自分の国の姿を、外から見た思いでした。

○現状

語り　今年の四月二八日、安倍総理の提案によって、四月二八日を日本の「主権回復の日」として、式典を行った。

語り　一九六二年のその日は、サンフランシスコ平和条約発効によって、日本は主権を回復し、同時に日米安全保障条約が結ばれた。沖縄にとっては「屈辱の日」とされていた。

イサ　イサです。米軍基地の運用に関して、なんにも言えない。そんなの主権国家なんて、言えないでしょ。沖縄だけがんばってもだめなんですよ。沖縄だけがんばっても、政府は押し付けてくる。オスプレイも十二機また新たに持ってこようとしています。主権回復を祝う式典も、沖縄では一万人以上集まって抗議しているわけですけれども、その声が届かないわけですから。

アヤ　基本的人権の尊重をうたう日本国憲法よりも、米軍人らの特権的地位を優先する日米地位協定が幅を利かせるのが沖縄の現実です。

語り　五月一七日、自民党は、今年新たに策定する長期的な防衛力整備の指針「防衛計画の大綱」の骨子案を示した。

語り　北朝鮮の核・ミサイル開発を踏まえ、敵基地攻撃能力の保持を検討するよう主張。

アヤ　動的防衛力、を「強靭な機動的防衛力」に変えたいのだそうです。どんどん、この国を戦争のできる国、に変えていこうとしている。

友寄　琉球大学の学生友寄です。僕と友人とで計三名、県議会へ陳情書を提出しました。オスプレイ配備、高江のヘリパッド建設中止を求める陳情です。二〇〇一年の同時多発テロのとき、僕は小学三年生でした。そのとき、僕たちは選挙権もなければ、政治に参加することもできない年齢でした。僕たちより若い世代の人たちに同じような状況が押し付けられないようにと、僕たちは陳情を提出したんです。でも、それが議論されることはありませんでした。すごく悔しかったです。

ヤヨイ　Ｎ４の近くのヘリパッドが一つ完成した写真を見ました。

アヤ　オスプレイの訓練に使われるヘリパッドの建設に一緒に反対して欲しいと、東村高江の住民が五月二十二日、伊集村長に要請しにいきました。

イサ　村長は相変わらず、「ヘリパッド計画はオスプレイを想定していない」として、建設容認の姿勢なんです。私が「もし新しいヘリパッドにオスプレイの着陸が確認できたら一緒に反対できますか？」と尋ねたとき、十五分過ぎたので、と会議を打ち切られました。また、オスプレイ反対の村民大会開催の要請に対し村長は、東村として大会を持つ考えはないという結論になったと述べました。

語り　二〇一三年、五月二八日、午前九時頃、国頭村安田瀬嵩崎から東南東五九キロの地点で、米軍Ｆ１５戦闘機が墜落した。

語り　安田は高江の二つ隣の集落である。

お母さん　私は最初も今も変わりなく自分の家で静かに暮らしたい。森の生き物たちも自分の森で静かに暮らせることが当たり前であって欲しい。いつ終わるとも知れない座り込み、先のことを考えると消耗します。あれこれ考えて何もしないより、今自分ができることをやろう。おかしいと思ったらおかしいって言おう。作られたくないから座ろう。一人じゃ無理ならみんなでやろう、簡単でいいんじゃないか、と思いました。

凄まじい轟音。

ピコ　うるさいいいいい！　おすぷれいー！

お母さん　うん。

ピコ　（風を受けて）くー！　負けないぞ……！

お母さん　ピコ、飛ばされちゃうね。

ピコ　お母さん、あのおすぷれい、くるくる回ってるよ。

お母さん　……おかしいね。

さらに凄まじい轟音。

お母さん　私（わったー）村から戦争が始まる。

友寄　僕らは生まれた頃から基地があって、何も不思議と思わずに生活してきました。でも、今、僕が座り込むのは、軍隊は戦争をするものだからです。基地は、戦争につながっているからです。

イサ　がっかりしてばかりもいられないです。がっかりして何もしないでいたら、どんどんひどい状況になっていく。そうさせないためには、声を上げ続けていくしかないと思います。この六年かけて、一つしか完成させなかった、これは大きなことだと思います。

アヤ　高江支援者で、友人の阿部小涼さんはこう言っています。「私が傷ついている。その痛みを分有する政治を生みだそう。泣いたり、憤ったり、笑ったり、歌ったりしながら暮らす私たちの政治を、抗議のなかから発明しよう。

お父さん　今、自分たちの状況っていうのはじゃばじゃば出てる蛇口の水を、手で止めているわけ。本来なら蛇口をしめなきゃいけない。蛇口を締めるのは政治家であり、民意だよね。でも、いまとりあえず蛇口の水をなんとかしなきゃいけなくて手でとめてるんだけど、このやり方じゃいつまでもできない。

ヤヨイ　民意を動かす必要があるということですね？

お父さん　あの手この手を使って、いろんな人が、いろんな方向からアプローチしていけたらいいんじゃないかって思う。俺は音楽をやってるから、それを通して語りかけていく、とかね。

ヤヨイ　台湾に行かれたそうですね。

お父さん　音楽的な繋がりの友達が、「海筆子（ハイビーツ）」って劇団紹介してくれてね、向こうで音楽ライブしたりして、ゆっくりやっていこうって思えた。ハンセン病患者の施設を壊して地下鉄作るのに反対するデモに参加したんだけど、俺たち呼んでくれたヤホンとミコちゃんが街宣車に乗って、ハンセン病と違う問題なのに高江のことを織り交ぜて紹介してくれて。高江―っていうと千人くらいの人が、高江―ってシュプレヒコールあげてくれる。沖縄でオスプレイ反対って言ってても、高江は忘れられがちだったりしたからさ。高江―、高江―、頑張れー、頑張れーって。……高江から五人くらい行ってたんだけど、みんな泣いたね。

ヤヨイ　高江のことは、高江だけの問題じゃないですから。

お母さん　私ね、世界の平和は、まず家庭から、って思うんですよ。

ヤヨイ　おお。

お母さん　でも、これが意外と難しいんですよ。

ヤヨイ　わかります。平和の源は、生活を守ることであって、もっと具体的なものになってくるでしょうから。しかも旦那さんがあのように自由人だとなおさら……。でも、この高江では、生活を守ることが、世界の平和を守ることにつながっていますね。

お母さん　でも、高江の座り込み現場には最終的にはヘリパッド建設を止める機能ないから。とにかく時間かせぎして、民意を上げて、政治的解決をする以外にヘリパッド止める方法なんてないよって思うけど、現場が熱くならざるを得ない状況で。あんまり強硬になってしまうと、他の住民の人たちの理解が得られなくなって、関係が崩れてしまったら民意も上がらない。高江のお母さんたちと話してて、理想としては、メインゲートにきた人に、反対する人も、防衛局の人も、メインゲートの守衛さんも、ありがとう、ありがとう、ってみんなハグしちゃう、そんなのがいいと思うんだけど、みたいな話も出て。

ヤヨイ　それは新しいやり方ですね。

お母さん　やっぱり、気持ちを伝えていきたいよね、新聞を作ろう、という話で盛り上がったんですよ。年五回か六回、それぞれみんな、なんでもいいから書け、と。それでテントに置こうって話してます。テント座ってるだけじゃ、ここに住んでる人がいてっていう、高江の暮らしがみえづらいから、そういうのをつくって手にとってもらえたらいいかなって。新月に願うと、願いことが叶うっていうのから、新月通信っていう名前に決まったんですよ。私、何書こうかな～。

ヤヨイ　高江に行って、読むのが楽しみです。

お母さん　あれ、パンフレットと一緒に、第一号、そこで配ってましたよ？

ヤヨイ　下北沢で読めるんだ！

お母さん　今度高江で、ゆんたくしましょうね。

アヤ　私は自分の想像力を駆使して、触れて、考えて、発信していこうと思います。一人一人が声をあげていくことで、この国は少しずつ変わっていく。今日も高江の人たちは座り込む。ただ、ただ、座り込む。静かに、おだやかに、暮らすために。そして、世界の果てで響く銃声を止めるのもきっと彼ら、と、私たちだ。

　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　（了）